

# 今月の経済動向 (平成30年8月)

## ● 月例経済報告 (8/29)

<p><b>基調判断</b></p>	<p>(8月) 景気は、緩やかに回復している。 先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、通商問題の動向が世界経済に与える影響や、海外経済の不確実性、金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。</p> <p>(7月) 景気は、緩やかに回復している。 先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、通商問題の動向が世界経済に与える影響や、海外経済の不確実性、金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。また、平成30年7月豪雨の経済に与える影響に十分留意する必要がある。</p>	
<p><b>個人消費</b></p>	<p>(8月) 持ち直している。</p> <p>(7月) 持ち直している。</p>	<p style="text-align: center;"><b>消費総合指数と実質総雇用者所得</b></p>
<p><b>設備投資</b></p>	<p>(8月) 緩やかに増加している。</p> <p>(7月) 緩やかに増加している。</p>	<p style="text-align: center;"><b>製造業・非製造業の設備投資 (実質)</b></p>
<p><b>住宅建設</b></p>	<p>(8月) おおむね横ばいとなっている。</p> <p>(7月) おおむね横ばいとなっている。</p>	<p style="text-align: center;"><b>住宅着工戸数 (季節調整値)</b></p>
<p><b>雇用情勢</b></p>	<p>(8月) 着実に改善している。</p> <p>(7月) 着実に改善している。</p>	<p style="text-align: center;"><b>雇用者数、就業者数の推移</b></p>

<p><b>生産</b></p>	<p>(8月) 緩やかに増加している。</p> <p>(7月) 緩やかに増加している。</p>	<p>鉱工業生産・出荷・在庫・在庫率の推移</p>
<p><b>輸出</b></p>	<p>(8月) <u>このところ持ち直しの動きに足踏みがみられる。</u></p> <p>(7月) 持ち直している。</p>	<p>地域別輸出入数量指数 (2010年=100)</p> <p>①輸出</p>
<p><b>国内企業物価</b></p>	<p>(8月) 緩やかに上昇している。</p> <p>(7月) 緩やかに上昇している。</p>	<p>企業物価の推移</p>
<p><b>消費者物価</b></p>	<p>(8月) <u>このところ上昇テンポが鈍化している。</u></p> <p>(7月) このところ緩やかに上昇している。</p>	<p>消費者物価の推移</p>
<p><b>海外経済</b></p>	<p>(8月) 世界の景気は、緩やかに回復している。先行きについては、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、中国を始めアジア新興国等の経済の先行き、政策に関する不確実性による影響、通商問題の動向、金融資本市場の変動の影響等について留意する必要がある。</p> <p>(7月) 世界の景気は、緩やかに回復している。先行きについては、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、中国を始めアジア新興国等の経済の先行き、政策に関する不確実性による影響、通商問題の動向、金融資本市場の変動の影響等について留意する必要がある。</p>	

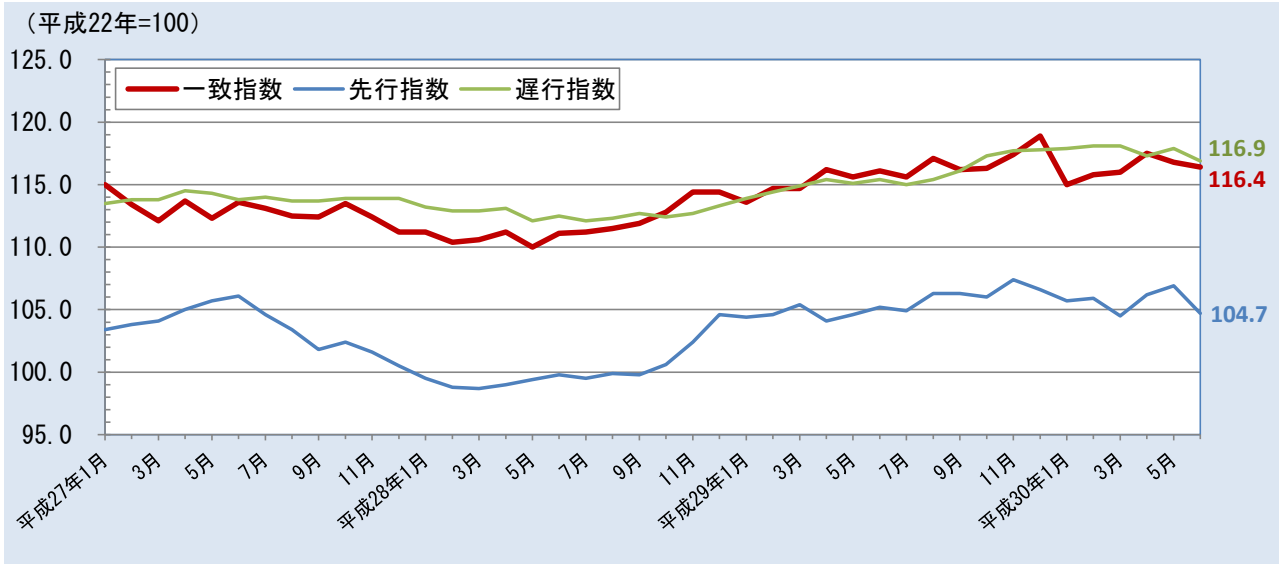
[月例経済報告：内閣府](#)

● 景気動向指数（平成30年6月・改訂値）

平成30年6月のCI一致指数（改訂値）は前月より0.7ポイント低い116.4ポイントとなり、2か月連続の下降となった。3か月後方移動平均は前月より0.13ポイント高い116.9ポイントとなり、3か月連続の上昇となった。7か月後方移動平均は前月より0.14ポイント低い116.6ポイントとなり、3か月ぶりの下降となった。

CI先行指数は前月より2.2ポイント低い104.7ポイント、遅行指数は前月より1.0ポイント低い116.9ポイントとなった。  
 景気の基調判断（CI一致指数）は、「改善を示している」を据え置いた。

※CIの数値は、一致・先行・遅行指数とも全期間で遡及改訂。（前月との比較は、遡及改訂後の数値による）



[景気動向指数：内閣府](#)